



次の10年に向けて

松楠会 会長 梶野 雅義



会員の皆様には、新型コロナウイルス感染症への取り組みに日々努められていることと存じます。このような状況下のため、本年度の松楠会理事会及び評議員会（総会）は、やむを得ず一堂に会する会議を中止し、書面議決を行うことにいたしました。

このたびの西山会長のご勇退に伴い、伝統ある松楠会の会長を務めさせていただくことになりました。昭和51年卒の私は若輩微力ではありますが、会員の皆様方のご協力をいただいて松楠会の充実発展に努めて参りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年度開催した「創立130周年記念事業」は、関係者の皆様方のご支援とご協力の下無事に終えることができました。実行委員長を務めた者としても心からお礼申し上げます。この事業を通して、次の140周年に向けての課題は、「個人情報を守る中で会員名簿の作成」と「松楠会会則を現状に合わせて見直していくこと」と考えています。関係者の皆様方と知恵を出し合って、課題の解決に向けて取り組んで参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

松楠会の新たな一步を

松楠会 理事長 植田 和也



松楠会の皆様には、日頃より母校へのご理解とご支援を頂き、誠にありがとうございます。昨年度の「創立130周年記念事業」では、ご寄付や式典・祝賀会へのご参加等を頂きましたことに深く感謝申し上げます。

この度、梶野新会長のもと、山神理事長の後を引き継ぎ新理事長として松楠会の新たな一步に関わらせていただくこととなりました。微力ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら進んでいきたいと存じます。何卒よろしくお願いいたします。

教育学部も様々な改革のなかで、数値による結果が否応なく求められます。現在、副学部長（学生生活支援担当）として、採用試験合格率や教員就職率の向上に先生方と努めております。例年とは違う状況下ですが、学生は将来の姿を描きながら必死で頑張っています。地域から愛され、期待される香川大学教育学部・教育学研究科・附属学校園であり続けるように、関係者の総力を結集して一步ずつ前へ歩いていく所存です。今後とも松楠会の皆様にはどうか母校を応援して頂きますようお願い申し上げます。

前会長退任挨拶

絆の深まった創立130周年記念事業

前松楠会会長 西山 徹



130周年記念事業は新しいメンバーで実施することが肝要だという小比賀会長の言葉で重責を引き継ぎましたが、自分に務まるのかと自問しながらの2年間でした。記念事業の内容や予算、記念誌の発刊、感謝状贈呈者の選出、記念講演講師の人選、記念祝賀会の運営等関係者との連絡調整をはじめ多くの作業がありました。しかし、学内理事や役員、実行委員の尽力と、これまでの周年事業についてのよく整理できた事務局からの記録の提供により円滑に運営することができました。そして何より、支部長様はじめ会員各位の協力や多くの参加により同窓生の絆が深まりお陰様で盛会裏に終わることができました。

130周年記念事業が終わった区切りと組織の活性化を願う思いからこの度退任させていただくことになりました。副会長を含め7年間松楠会役員を務めさせていただきましたが、母校との関わりや同窓生との交流ができて充実した時間を過ごすことができました。本当にお世話になり有難うございました。今後益々松楠会が発展することを祈念して退任の挨拶とさせていただきます。

前理事長退任挨拶

理事長退任にあたり

前松楠会理事長 山神 眞一



平成28年6月より2期4年間にわたり、松楠会理事長として教育学部卒業生の会の運営に関わらせて頂きました。令和元年10月には、香川大学教育学部創立130周年記念事業に携わることもでき、ご支援頂きました卒業生の皆様には改めてお礼申し上げる次第です。ありがとうございました。

香川大学教育学部の歴史は、言い換えるならば香川大学の歴史でもあります。これまでの長い歴史と伝統に支えられてきた香川大学教育学部卒業生の一人として、これからも微力ではありますが、尽力して参りたいと思っています。昨年10月より学生支援・広報・特命担当の副学長を仰せつかっております。全学的な視野からも教育学部の発展に寄与していく所存でございます。

卒業生の皆様には、今後もどうか母校香川大学教育学部へのご支援ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

学部長挨拶

大学改革の動向と教員養成

香川大学教育学部長・教育学研究科長 野崎 武司



何かしら世の中の大きな転換期を迎えているように感じます。少子高齢化は進み、小・中学校、高等学校の統廃合が待ったなしに展開しています。大学も大きな変革を迫られています。大学経営を学長のリーダーシップで展開せよ、ということが強まるばかりで、各大学の強みを生かし戦略的に大学を改革していくことが求められています。世の中のニーズから、イノベーション人材の養成に大きな焦点が当たっています。

将来を支える人材養成の根幹は、「教育」であることが見失われがちです。百年の計と言われる「教育」の大切さに世の中の注目が注がれるような仕事をしていかねばならないと思っています。「少子化の中で教員養成は斜陽産業だ」などと言う揶揄をしっかりと跳ね返していけるよう、将来構想を考えていきます。そのためにも、学生の教員就職率や、地域のシェアといった数値上のエビデンスが求められます。そうした結果に目を奪われるだけではなく、プロセス重視の努力を重ねたいと思います。

母校教員の異動

退職

令和2年 3月31日	退職(定年)	有馬 道久	教授	R2.4.1付け名誉教授
	退職(定年)	高倉 良一	教授	R2.4.1付け名誉教授
	退職(定年)	村山 聡	教授	R2.4.1付け名誉教授
	退職	伊藤 裕康	教授	R2.4.1付け名誉教授
	退職	佐竹 郁夫	教授	
	退職	藤 博之	准教授	
	退職	佐藤 盛子	准教授	高松市立香西小学校教頭へ
令和元年 9月30日	退職	齋藤 嘉則	教授	

採用

令和元年 10月1日	准教授	小方 直幸	学校教育
令和2年 4月1日	准教授	笹屋 孝允	高度教職実践専攻(授業研究、学習指導論)
	准教授	清水 顕人	高度教職実践専攻(道徳教育、学校臨床実践学)
	准教授	豊島 修	教育課題研究 交流人事教員

併任

令和2年 4月1日	併任(継続)	永尾 智	附属高松小学校長
	併任(継続)	坂井 聡	附属坂出小学校長・幼稚園長
	併任(再任)	佐藤 明宏	附属高松中学校長
	併任(新規)	平 篤志	附属坂出中学校長
	併任(継続)	青山 夕夏	附属特別支援学校長
	併任(再任)	松村 雅文	附属教職支援開発センター長
	併任(新規)	高木由美子	研究科評議会評議員
	併任(継続)	毛利 猛	評議員・総務委員長
	併任(新規)	若井 健司	副学部長 評価・財務担当
	併任(継続)	北林 雅洋	副学部長 連携・附属担当
	併任(継続)	櫻井 佳樹	副学部長 人事・国際交流担当
	併任(継続)	植田 和也	副学部長 学生生活支援担当

定年を迎えて

有馬 道久



昭和61(1986)年10月に着任し、令和最初の年度末に定年退職いたしました。あらためて振り返ってみると、まさに平成の30年余りを教育学部でお世話になったことになります。この期間は国立大学の法人化や教職大学院の開設などさまざまな改組・改革の連続でした。初めの頃は当事者意識も低く、洪々取り組んでいたところもありましたが、月日の経過とともに改組・改革の真っ只中にいたこともあり、次第に積極的に関わるようになりました。こうした取り組みの中で、最も強く感じたことは、チームワークの大切さとありがたさでしたが、このように感じる事ができたのも、信頼できる先輩、同僚、後輩、そして、折に触れ物心両面のご支援をいただいた松楠会の皆様のおかげだと感謝しております。本当にありがとうございました。

松楠会にまつわる思い出としては、120周年記念式典とホームカミングデーがあります。この2つの行事を通して、同窓会には「過去を懐かしみ、あらためて感動する、そして、明日を想う」という意義とともに、「大学と社会を結ぶ橋渡し役」という重要な役割があることを実感しました。

新型コロナウイルスの蔓延など、先の見通しが立たないこういう時こそ、時間と空間を超えて働く松楠会のお力が必要になるのではないかと思います。松楠会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、ご挨拶いたします。

定年退職のご挨拶

高倉 良一



瀬戸大橋が開通する1年半前、1986年10月1日に香川大学教育学部に着任致しました。以来、2020年3月31日に定年退職するまでの33年と半年間、教育学部でお世話になりました。

昇 任

令和2年 4月1日	教授	小方 直幸
	教授	畦 五月
	教授	高野 啓児
	准教授	東浦亜希子

訃 報

太田 儔 (名誉教授)	令和元年11月18日	ご逝去
青木 昌三 (名誉教授)	令和元年11月22日	ご逝去
長谷川泰三 (元伸善支部長)	令和元年11月26日	ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

この間、様々な試練に直面致しましたが、無事に退職することができたのは、皆様方のご指導ご鞭撻の賜物だと感じております。ただただ感謝あるのみです。心より厚く御礼申し上げます。

教員を志望する学生の皆さんや、新課程の多彩な学生の方々に対して、法律学に関する授業科目を担当させて頂いたことは、とてもありがたいことでした。そのおかげで、法律学全般に関する分野と、家族に関連する領域を広く深く考えることが可能となりました。

2001年以降は、主たる研究テーマを法教育の領域に定め、研究、教育、そして裁判などの実践活動に取り組んで参りました。

その結果、伊藤裕康先生が編集された私の退職記念誌には、「法教育・社会科教育とその周辺」とのタイトルが附さる運びとなりました。ありがたい限りです。

また、KJ法を活用した自転車に関する調査研究が機縁となり、高松市の自転車の走行と駐輪に関する2つの協議会の委員長を10年間担当させて頂きました。

現在、アーケード街の中心では、自転車の走行が禁止され、自転車の専用道が整備されつつあります。高松市の変容には、感慨深いものがあります。

最近では、転居に伴う「断捨離」に追われつつ、教育学部の近くで、学習支援を中核に据えた株式会社を設立すべく準備中です。

株式会社設立後は、インターネットを活用した「学問共同体としての大学」を創設します。

教える者と教えられる者が固定化された「スズメの学校」ではなく、共に学びあう「メダカの学校」をスローガンに、「人間らしく」生きることができる社会を創設するための拠点となる「大学」を設立致します。

希望の未来を実現すべく、「明るく、楽しく、元気良く」をモットーに精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほど、衷心よりお願い申し上げます。とともに、皆様方のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

定年退職を経験して

村山 聡



香川大学の教育学部そして全学共通教育で授業をしたのは26年間であった。退職後の今も、科研や二国間交流事業で幸町キャンパスの研究室は使わせてもらい、また、有償無償で数科目の授業をしている。学部運営に一切関わらなくなった。それ以外はそれほど大きな変化はないようにも思える。しかし、この定年退職で一番大きいのは、学生への責任つまり入学から卒業まで一貫した責任を有しているという現実から解放されたことである。それを今感じるということは、それまでは予想以上の重圧がかかっていたのだと思う。一つ一つの授業への責任は当然であるが、学部や全学でのカリキュラムの総体への責任とは大きく異なる。一つの大学を卒業すること、その重みは、個々の大学生の成長によるもの

であることは当然としても、学生を育て共に生きる教職員の自覚と責任そして学生のキャンパスライフの充実が大きく影響していることも事実であろう。今後、大学はどこへいくのか、どこへ向かっていくべきなのか、対面授業が制約され、大学というキャンパスがほぼ使えない状況がいかに問題か。今の新型コロナウイルスは本当に収束するのか。さらにオオコウモリやセンザンコウに限らず、新たな動物由来の感染症の登場を否定できない現状において、人間と人間そして人間と自然との関係性が改めて問い直されている。誰のために自己責任を果たせるのか。ヒトとヒトとの距離を保たなければいけない現状において、ますます自己のみを考えていては生きられないと感じている。

雑然から混沌へ —退職の挨拶と近況報告—

伊藤 裕康



定年にまだ間がありましたが、4月より文教大学教育学部（埼玉県越谷市）に転出いたしました。平成14年から18年間、松楠会の皆様にはお世話になりました。この間、平成18・19年度の教員養成GPでは、講師の安彦忠彦先生をお呼びすることに尽力させていただいたり、附属坂出中学校の校長職を2期させていただいたり、坂出高校教育コース設置を提案したりと、私なりに顔晴ったと思います（誤字ではありません）。

文教大学では着任早々、研究室前のホールに雑然と積まれた段ボール箱約240箱の中身を研究室に収納する作業が待っていました。自宅の50箱は後回しにし、その作業に没頭しました。慌てて詰めたので、どの段ボールに何が入っているか正確に分からず、発掘作業の様相を呈しました。そうこうするうち、教務委員になったので、コロナ対策関係の諸連絡や学生へのオンライン授業関係の環境調査等、毎日のようにすることがあり、一端作業は止めそれらをしていました。今、やっと自分の授業のことに思いが至っていますが、何も手がつけれられていません。段ボール箱は未だ30箱程、自宅も10箱以上残っています。残りの本等を研究室に収納する書架もありません。生活上も仕事上も穴だらけ、荘子の死んだ混沌のような状態の中、附属坂出中学校を去る際、松韻会からいただいたクリスタルの時計だけ、研究室で輝きつつ正確に時を刻んでいます。

ありがとうございました

佐藤 盛子



交流人事教員として、平成28年度から平成31年度までの4年間、香川大学に勤務する機会をいただきました。松楠会を始めとする香川大学の皆様には、たいへんお世話になりま

した。在職中、香川大学教育学部創立130周年記念式典の開催に際し、松楠会学内理事としての仕事を通して、これまで実に多くの方々に温かく支えられ、育てていただいたことを改めて感じることができました。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

香川大学は母校でもあり、学部生、院生の時に続き3度目のご縁だったのですが、教職を目指す学生や院生の「教職実践」の授業を担当する教員として過ごすことができた4年間は、たいへん幸せで充実した日々でした。香川大学で出会った方々との得難い経験は、たくさんの懐かしく、温かな思い出とともに、大きな宝となりました。

私は今、高松市立香西小学校の教頭として、教職員の方々とともに、子どもたちのために全力で取り組んでいます。今後、子どもたちが、自分の中にしっかりと柱を持つために、そして、深い思いやりの心とたくましい実行力を持つために、ふさわしい教育の在り方を追い求め続けていきます。その際、香川大学での学びを大切に生かし、自分に何ができるのか考えながら精進してまいります。

最後になりましたが、松楠会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

定年退職のご挨拶

寒川 洋一



本年3月31日をもちまして、定年退職となりました。

私は、昭和57年4月に旧香川医科大学で採用となりました。当時は附属病院開院の1年半前で、開院準備等で毎日遅くまで仕事をしておりまして、今から考えると超ブラックなところに就職したものだと思っております。その後、平成15年10月に統合で香川大学の職員となり、平成29年4月から2年間で阿南工業高等専門学校に出向して、平成31年4月に香川大学に帰ってきました。最後の教育学部での1年間を合わせて、通算38年間事務職員として勤めさせていただきました。

この間、おかげさまで大過なく勤めることができたことは、私を支えていただいた周りの方々のおかげと思ひ感謝に耐えません。

教育学部に来てから最後の1年間は、教育学部、附属学校園への大学内外の風当たりが厳しいなか、なんとか力になりたいと思っておりましたが、なかなか皆様の希望に添った結果をだせなかったことが心残りです。

松楠会との関わりは、教育学部事務課長としてまた学内理事として、1年間の短い間でしたが、運営に携わせていただきました。特に、教育学部創立130周年記念行事に参加させていただいたことは大変良い思い出となりました。

最後になりましたが、教育学部と松楠会の益々のご発展と、会員様のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。



高松 支部 ————— Takamatsu



昨年8月24日（土）西山会長様・片岡学内理事様にご臨席を賜り、JRホテルクレメント高松で第53回総会を行いました。総会後の記念講演会では、直島中学校長小川浩様、直島小学校長樫貴志様から、「コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成～読むこと・書くこと・話すこと（やり取り）の小中連携を通して～」と題して、地域発信型単元や日常化等を内容とする興味深い講演がありました。参加者数の増加や魅力ある研修等の課題を解決しながら、心温まる交流の場にしたいと思っています。気軽に参加できる若手会員中心の会も企画しています。

多くの皆様の参加を心からお待ちしています。

後藤 文男（教育・昭和46年卒）

丸亀 支部 ————— Marugame

8月20日（火）丸亀支部総会の議事審議の後に、おもちゃを作りました。「ストローと息で吹き上げる小型の風車」・「洗濯挟みのバネを利用してストローを飛ばすロケット」・「ストローの蛇腹を利用したガリガリトンボ」・「6カ所のラップの芯に通した紐が全部つながっているおもちゃ」です。総会後の懇親会も、思い出を語って過ごしました。来年の再会を約した楽しい半日でした。



▲吹き上げ
ヘリコプター

ガリガリ▶
トンボ

◀洗濯挟み
ロケット

▼引っ込み
思索

前田 伸雄（学芸・昭和40年卒）

坂出 支部 ————— Sakaide



坂出支部の会員は、現職116名、OB134名の計250名です。

昨年度、坂出支部総会を8月31日（土）に開催し、松楠会副会長の中西眞理子様、学内理事の久米亜弥様のご臨席をいただきました。総会後には、香川県危機管理総務局危機管理課 防災指導監 松村朝生氏より「南海トラフ地震等に備えて」と題してご講話をいただき、今後の学校現場における危機管理への大きな示唆を受けました。今後とも、充実した運営を図りたいと考えております。

桑原 育子（香川大学教育学部附属幼稚園・平成4年卒）

大川 支部 ————— Okawa



令和元年度松楠会大川支部総会は、8月25日（日）に、さぬき市クアパーク津田にて開催されました。松楠会本部から西山 徹会長、佐藤盛子准教授をご来賓としてお招きし、28名の支部会員の出席をえて、盛大に行われました。

総会では、平成30年度の事業報告、会計報告、令和元年度の事業計画、予算案等について協議し、最後に役員改選を行いました。記念講演には、来賓を兼ねて御出席くださった香川大学教育学部准教授佐藤盛子先生に「心の教育について考える」と題して、御講演をいただきました。新学習指導要領に示された「特別の教科 道徳」が既に先行実施されている中、心の教育の充実が求められる背景や現状、道徳科がめざすものや評価等についての留意点等をご示唆いただきました。総会、講演会後には、来賓、講師の先生を囲んで懇親会を開き、有意義なひとときを過ごしました。

大川支部の令和元年度の会員数は、388名（OB会員229名 現役会員159名）です。今後とも会員相互

に連携を深めるとともに、先輩の先生方や本部の皆様の指導を賜りながら、会員の研修、懇親の場として充実した運営を進めていきたいと考えています。

山中 正治（教育・昭和62年卒・さぬき市立志度小学校）

小豆支部 Syozu



令和元年度の小豆支部の活動は、8月25日（日）に松楠会本部から中西副会長のご出席を賜り、年間唯一の支部事業である総会を開きました。参加者は残念ながら11名という少人数でした。総会事業の後で、熊坂泰忠先生による「田中河内介の話を中心に」と題する講話を伺い、先生のご造詣の深さに圧倒されました。その後は懇親会を持ちおひらきとなりました。

元年度の小豆支部の会員は、現職教員48名・OB会員76名、計124名という少数で、しかもOBのうち26名は88歳以上（34%強）という高齢化が著しいので、若い力の参加で活性化できることを望んでいます。

坂下 公臣（学芸・昭和37年卒）

木田支部 Kita



令和元年度の木田支部の主な活動は、7月の役員会と8月の総会・懇親会並びに教育講演会の開催です。8月22日の総会は今年度もトRESTA白山で開催し、ご来賓として松楠会本部より梶野雅義副会長様並びに津山勝義学内理事様にご臨席いただき、ご挨拶やご助言をいただきました。昨年に引き続き、総会や懇親会には大勢のベテラン教員並びに若年教員の参加がありました。今後もますます積極的な参加を呼び掛けていきます。

午後からは、三木町防災センターで木田教育会との共催で教育講演会を今年度も開催しました。講師は、竹下和男先生にお願いし「子どもを台所に立た

せよう」と題してご講演をいただきました。竹下先生からは、子どもが自分でお弁当を作って学校に持ってくるという「弁当の日」について紹介していただきました。未来の子どもたちの食と農をよくしていくための素晴らしい取組であり、改めて「食べることの大切さ」を実感することができました。今後も松楠会が会員の親睦を深めつつも、教育課題等についてお互いに学ぶよい機会になればと思っています。

児玉 博美（教育・平成2年卒・三木町立平井小学校）

綾歌支部 Ayauta



会員357名（OB176名・現職181名）の綾歌支部では、風薫る5月、本部から山神理事長・梶野副会長様をお迎えして恒例の総会・研修・懇親会を開催しました。総会の場で若年会員の意欲溢れる発表に頼もしさを感じ、研修会では癒しのツボを学んで「体スッキリ、心生き生き」を実感、続く懇親会ではふれあいゲームも取り入れ、和やかな交流の場となりました。5号となる今年の支部だよりには現職会員の先生方の声も寄せられ、会員の絆が徐々に広く・強くなっている感があり、喜んでいます。2年度は役員改選の年、スムーズに世代交代が進み、会員増につながるよう、日頃の人間関係づくりと熱意ある働きかけに努めたいと願っています。

鷲辺 達子（教育・昭和45年卒）

仲善支部 Tyuzen



仲善支部では、OB会員195名、現職会員153名の計358名が所属しており、総会と新年祝宴の会を盛大に開催しています。懇親の場では吟詠やヴァイオリンの演奏、折り紙教室等を行い、賑やかに、また、穏やかな時間を過ごしています。新年祝宴の会の絵画パフォーマンスでは、参加者が固唾をのんで見守



る中、『ねずみの嫁入り』の墨絵ができあがり、会場いっばいに歓声が上がりました。講師の川添正次郎様の絵の解説を聞き、会場は再び大盛り上がり。次年度のパフォーマンスを参加者一同、楽しみにしています。

今後も、『世代を超えて交流できる同窓会』を目指して、新しい試みを実践したいと思います。

石井 恭子（教育・昭和51年卒）

三観 支部 ————— Sankan



三観支部の活動を紹介するには、1年間では紹介し切れません。なぜか？ サイクルが2年間サイクルになっているからです。即ち、総会は2年間に一度、理事会も2年間に一度です。ただし、役員会は、年間4～5回開いています。なぜか？ 総会のない年の会報発行準備もありますが、役員の顔合わせもあります。「次回まで会えなったら呆けて顔忘れてしまうかもしれん。」

かくして、事務局をお願いしている観音寺小学校の迷惑も顧みず、次回開催を計画しています。

スローライフと活動の一体化、私はかつてに、そう思い込んでいます。

藤田 善秋（教育・昭和43年卒）

兵庫 支部 ————— Hyogo



兵庫支部では毎年総会と若手懇親会（将来の夢を語る会）を企画し、会員の親交を深めています。先輩方の経験談や若手の頑張りを率直に語り合える場は、参加者にとって刺激をもらえる場となっています。昨年度は今までにはなかった、現役大学生（兵庫県で勤務予定）の参加もあり、大いに盛り上がりました。今年度は、新型コロナの影響で具体的な日時については、まだ未定ですが、例年同様、和気藹々

とした時間を作る予定でいます。

山川 寿夫（教育・昭和62年卒）

岡山 支部 ————— Okayama



岡山支部は、毎年8月に総会・懇親会・秋に支部のイベントを開催して会員の懇親を深めています。昨年の総会・懇親会では、本部から西山徹会長、山本木ノ実学内理事をご来賓としてお招きし、6名の学生を含めて22名の出席をえて行いました。総会後の講演会では、山本木ノ実学内理事から、岡山県の特別支援教育の最新情報を、先生の経験も交えて分かりやすくご講演頂き、充実した研修を行うことができました。

11月には、高梁市図書館の見学と町並み探訪を行い、改めて高梁の歴史と文化に触れることが出来ました。

今後とも、充実した支部運営を図りたいと考えています。

小林 巧（教育・昭和55年卒）

徳島 支部 ————— Tokushima



松楠会徳島支部は、平成28年に結成された、14の支部の中では最も新しい支部です。今年は、新型コロナウイルス感染予防のために実施しませんが、毎年、夏に総会並びに親睦会を行っています。親睦会には20名ほどが参加し、近況報告やなつかしい大学時代の話などで盛り上がっています。今後も人々との繋がりを大切にしながら、松楠会徳島支部を活性化していきたいと考えていますのでご協力をお願いします。

橋本 隆（教育・昭和59年卒・北島町立北島小学校）



記念式典にて感謝状の贈呈



祝賀会の様子

創立130周年記念事業の御礼

■ 大変お世話になり、有り難うございました。

各記念事業へのご協力・ご支援等、誠に有り難うございました。当日の式典、有森裕子氏の講演、祝賀会と大勢の皆様にご参加を賜り、盛会に終えることができました。また、130周年記念誌の原稿執筆や写真のご提供をいただきました皆様のおかげで、無事に発刊することができました。重ねて御礼申し上げます。



松楠会支援事業

令和元年度松楠会支援事業の活動報告は、松楠会ホームページをご覧ください

令和3年度松楠会支援事業の募集

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 …………… (1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締切 …………… 令和3年1月31日
- 4 提出先および問合せ先 …… 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス：syounan@kagawa-u.ac.jp TEL：087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回までとします。選考結果については、2～3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会（香川大学教育学部同窓会）の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。

役員

会 長	梶野 雅義*
副会長	中西真理子 貞廣美津子 津山 勝義*
顧問	野崎 武司*
理事長	植田 和也*
学内理事	小野 安司* 山神 眞一* 佐藤 明宏 西田 智子 坂井 聡 片岡 元子 山本木ノ実 宮本 賢作 塩井 実香 中島栄美子 大浦みゆき 高橋 智香 稗田 美嘉 大熊 裕樹 久米 亜弥 清水 顕人*
(但し、大熊、久米の学内理事期間は、人事交流の期間とする。)	
附属理事	藪内 康則 (高松) 桑原 育子* (坂出)

支部事務局

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	760-0080	高松市木太町2613 高松市立木太北部小学校	池田 茂樹
丸 亀 支 部	763-0071	丸亀市田村町973 丸亀市立城南小学校	真鍋 真紀*
坂 出 支 部	762-0031	坂出市文京町1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	桑原 育子
大 川 支 部	769-2101	さぬき市志度727 さぬき市立志度小学校*	山中 正治
小 豆 支 部	761-	小豆郡	交代予定
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	児玉 博美
綾 歌 支 部	769-0105	高松市国分寺町柏原1034	鷺辺 達子
仲・善 支 部	765-0001	善通寺市仙遊町1-10-20	石井 恭子
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	新田 秀樹*
愛 知 支 部	489-0877	愛知県瀬戸市東赤重町1-38-1	糸 綾子*
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-8	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	701-1211	岡山県岡山市北区一宮892-9	小林 巧
徳 島 支 部	771-3201	徳島県名西郡神山町阿野字五反地187-1	大草 晴香

事務局報告

令和元年度評議員会(総会)の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

令和元年度 松楠会支援事業

- 動くおもちゃ作り・木工教室(大川支部 代表 多田 照代 他)
- 松楠会杯 かがわ水 Rocket 甲子園2019(代表 大野 憲三 他)
- とともに歌おう2019(合唱団ミュージックウェイ 代表 渋谷 清壽 他)

令和元年度 学生支援事業

- 第18回未来からの留学生(令和元年10月13日(日) 香川大学幸町キャンパス)
- 第13回わくわくコンサート(令和2年2月2日(日) サンポートホール高松)

令和元年度 表彰者

● 山神眞一	厚生労働大臣より感謝状	1万円
● 黒田武彦	日本天文学会より天文教育普及賞受賞	1万円
● 坂井 聡	『知的障害や発達障害がある人とのコミュニケーションのトリセツ』出版	2万円
● 植田和也	『いじめはなぜなくなるのか』出版	1万円
● 植田拓人	『藤川三溪』出版	1万円



千里の行も足下に始まる

香川大学教職大学院 特命教授 津山 勝義



2年前に中学校国語科教員としての38年間の教職生活を終え、思いがけない幸せで、現在、母校で現職の小中学校等の先生や4年生大学を卒業した学部卒生の授業をさせていただいています。随分永らく教育に関わることになったものです。

思い起こせば、高校3年生の冬までは進路を理系と決めており、教育学部国語科を希望したことは皆無でした。もちろん教育への高い志はなく、使命感も湧いておらず、軽い好奇心程度で香川大学教育学部に入学したのです。皮肉なことに、現在、教員としての使命感を考えさせたり、高度な専門性を身に付けさせたりする授業をしています。全く運命とはわからないものです。ただ、本学に入学後も教員に採用された後もひたすら泥臭く実践を積み重ねました。

大学1年生から家庭教師として高校1年生を教え始め、その後、さらに2人の中学生、自閉症の小学生を掛け持ちで教え、大学卒業間近の2・3月には、高松市教委からの依頼で、助教諭の免状をもらって中学校で講師をしました。そして、4月に同市内中学校に赴任後、附属中学校やへき地の小学校、教育困難校、県教委事務局で勤務し、保育所や幼稚園で入卒園式の挨拶など、様々な教育現場を経験しました。

経験を積み重ねる中で、子どもたちだけでなく、教職員も保護者や地域の方も、それぞれの人生の多様なステージで、常に運命に耐えながら懸命に生きていることを感じ続けました。どのような境遇や環境であってもしなければならない人々を大切にしたいという思いが年々強まる一方です。成果や効果よりも、自分が関わる人の心が安らくなり、笑顔になれる瞬間が増えるように、自分の経験や知識が何らかの役に立てばうれしい、と考えるようになりました。

現在は、授業実践に加えて小中学校での実習指導等をする職場ですが、学ぶ意欲にあふれた方に直接関われる授業やゼミナールがあることは、うれしく感じています。その授業が、今年度は新型コロナウイルス感染症のためにオンラインでせざるを得なくなり、写真のように、パソコンの画面を相手に電波の向こうの院生に授業をしています。

老子に「千里之行始於足下」とありますが、私も主語を日本の教育とか子どもとかで語るのではなく、「足下」に当たる具体的な学校名や個人名を主語にして、個々をしっかり捉えながら、今後も共に学び続けたいと思っています。



PCを活用しての
オンライン授業

編集後記 ■ ■ ■

■ 原稿執筆にご協力をいただきました皆様のおかげで会報を発行できますことに深く感謝申し上げます。今後も松楠会並びに教育学部の状況や活動を見守り積極的にご参加いただくために情報を多彩にお届けしてまいります。松楠会ホームページにも様々な情報を掲載しておりますのでご覧ください。また、ホームページ掲載原稿をぜひお寄せいただきたくお願い申し上げます。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>



松楠会報

第57号

発行日 令和2年7月30日

発行人 梶野 雅義

植田 和也

編集 植田 和也

片岡 元子

山本木ノ実

中島榮美子

香川大学教育学部同窓会 松楠会